



# APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

## グリーン・アンバサダー(環境大使)研修 2013 5月8日～14日 香港にて開催予定

自然環境の保護は、ポスト近代に生きる私たちに与えられた最も大きな課題となっています。開発や発展の名の下に、工業化が始まったころから地球の環境を自分たちの手中のものにして以来、自然環境の破壊や天然資源の収奪は、20世紀からずっととどまることを知りません。炭素排出量は新たなレベルに達しました。地球温暖化は、人間の生活に多くの悪影響を及ぼす気候変動に至らしめました。このような事態を打破し、差し迫る危機から地球を救うため、全員が一丸となった努力が必要なのです。



アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)は、これまでも、自然環境保護に関して、多くの人々に注意喚起する活動を行ってきました。APAY グリーン・チーム(環境問題の専門家チーム)による主要なプログラムのひとつが、「グリーン・アンバサダー(各YMCAにおける“環境大使”)研修プログラム」です。APAY グリーン・チームは、若者たちに、二酸化炭素排出量を減らすために自身の行動を変えるよう働きかけ、またYMCAの働きを強調しつつ、若者たちが平等な温暖化対策(climate justice: さまざまな国が平等に温暖化の対策をとること)について提言できるよう、このプログラムを始めました。APAY は、アジア・太平洋地域のさまざまなYMCAから参加者をリクルートし、研修(トレーニング)し、グリーン・アンバサダーとともに歩む4年間のプロセスを開始しました。彼らグリーン・アンバサダーたちは二酸化炭素排出を減らすこと、またYMCAが徐々に「炭素排出ゼロ」の組織となれるよう導くことを目指し、それぞれの所属するYMCAでグリーン・プログラム(環境保護に関するプログラム)を行うことになっています。

第1回グリーン・アンバサダー研修は、2012年5月21日～25日にタイ・チェンマイYMCAで開催されました。15人の熱心なボランティアやスタッフが参加しました。研修中、参加者たちは、気候変動、温室効果ガス、地球温暖化について、また気候変動の影響に関する科学的な統一見解のほか、環境問題に関する社会経済的、文化的、政治的な側面についても学びました。フィールド・トリップでは、さまざまな省エネルギー機器(energy saving devices)や、ソーラー・エネルギーなどの新エネルギー源、バイオガス・プラントなどを活用し、炭素排出を削減する試みを行っている団体等を訪問しました。誇るべきは、この研修プログラムの後、多くの参加者はそれぞれのYMCAで環境保護に関する活動を始めたことでした。

第1回グリーン・アンバサダー研修の成功を受け、APAYでは、2013年5月8日～14日、香港・ウーカイシャ(烏溪沙)ユースビレッジにて行う第2回グリーン・アンバサダー研修の準備をしています。私たちは多くの国々のYMCA、特に東アジアの国のYMCAからの参加を期待しています。

私たちは、アジア・太平洋地域のYMCAが、さらに環境に配慮し、環境保護に対して敏感になり、炭素排出を削減し、平等な温暖化対策を目指す取り組みを行うことを望んでいます。

このように、グリーン・アンバサダー研修では、参加者たちが気候に関する教育を学べるよう焦点を当て、炭素排出がもたらす影響や炭素排出量削減の方法を学び、YMCAで最も優れた環境対策について共有し、再生可能エネルギーや省エネルギー機器、二酸化炭素計算機(<http://www.asiapacificymca.org/form/apaycc.htm>)の活用方法について学びます。有能なリソース・パーソンたちがファシリテーターとなり参加型ワークショップが行われ、エクスポージャー・トリップではさまざまな環境保護の試み

や再生可能エネルギーについて学べるよう企画されています。

この研修が開催される香港中華YMCAウーカイシャ・ユースビレッジは、香港・新界(New Territories)の沙田(Shatin)にある馬鞍山(Ma On Shan)に位置し、近代的な研修施設を備えたYMCAのキャンプ場であり、リトリートセンターでもあります。最近、炭素排出ゼロの施設を目指し、改装が行われたばかりです。私たちは、炭素排出削減に取り組むこのセンターの利用を強くおすすめします。このセンターは、グリーン・アンバサダーたちが、YMCAにおける炭素排出に関する試みを直接体験することができるという観点から、今回の研修の開催地として選ばれました。

今回の研修は、香港YMCA同盟からの補助を受けて開催されます。

この研修の詳細に関しては、日本YMCA同盟までお問い合わせください。

### 東ティモールでの忘れられない思い出 Duncan Chowdhury

東ティモールは2002年にインドネシアから独立しました。インドネシア領になる前は1976年までポルトガルの植民地でした。東ティモールは、インドネシアの南、オーストラリアの北にあります。人口は約100万人で、その97%がカトリック、2%がプロテスタント、残り1%はイスラム教徒やその他です。テトゥン語が東ティモールの公用語です。人口の85%は農村部に暮らしています。失業問題や、多くの自然災害を抱え、東ティモールでは国連の存在がとても大きいのです。開発は進んでいますが、そのスピードは緩やかなようです。経済状況はあまりよくなく、人々の大半が1日1USドル以下で生活しています。野菜以外のほとんどを輸入に頼っているため、生活必需品の価格は高騰しています。先日、APAYのDuncan ChowdhuryとRichard Kaingが東ティモールYMCAを訪問しました。

東ティモールYMCAの正式名称は、Assosiasaun

Nasional Juventude Christian Timor Leste (略称: ANJUJCTIL)といい、2005年に創立されました。首都ディリのテラサンタ(Terra Santa)とアムティン(Aimutin)にセンターがあります。

テラサンタにあるYMCAのプログラムセンターでは、子どもたちのプログラムを行う、サッカー場や図書館、コミュニティ交流の場があります。約100人の子どもたちがノンフォーマル・スクールに在籍しており、主に絵や文化、聖書に関して学んでいます。定期的で開催されるサッカークラブには300人以上のメンバーがいて、サッカーのスキルを身に付けています。毎年、東ティモールYMCAでは、地元テラサンタの多くの人々が観戦するサッカー大会を開催しています。

韓国YMCA連盟によって運営されているピース・コーヒー・プロジェクトは称賛に値するプログラムで、アムティンに事務所があります。レテフォホ(Letefoho)やロウト(Rotuto)といった農村部で収穫されたコーヒーは、適正な価格で購入され、韓国に輸出された後、韓国市場に向けて精製され、袋詰めされ、取引されます。Ms. Yang Dong-hwa氏がこのプロジェクトの駐在ディレクターです。このプロジェクトは7年前に始められ、今では年間30~40トンのコーヒーが韓国向けに輸出されています。このプロジェクトは、サメ(Same)のコミュニティの500家族に直接的・間接的な利益をもたらしています。今年、ピース・コーヒー・プロジェクトでは、地元の市場をターゲットに、コーヒーの精製と袋詰めを東ティモール国内で始めようと計画をしています。また、大学の近くに若者向けのカフェをオープンする計画も立てています。これら2つの計画が始まれば、東ティモールのYMCAは莫大な利益を得ることができるでしょう。

2月18日~20日、ピース・コーヒー・プロジェクトのワークショップがコム・ビーチ(Com Beach)で開かれ、14人のプロジェクトスタッフが参加しました。このワークショップの目的は、このプロジェクトの構造を理解し、YMCAやそのスタッフの役割や責任について意識を高めることでした。このワークショップは参加型のアプローチで進められました。

8月には10日間のユース・ピース・キャンプが、ディリとその近郊で行われる予定です。キャンプのテーマは350ppm(訳注:大気中の二酸化炭素量削減の目標値)に関連して、「環境を保護する(Saving the Environment)」です。東ティモールのユースとともに、主に日本や韓国からの参加者が集う予定です。

また、東ティモールYMCAは、宗教間協力フォーラム(Interfaith Cooperation Forum:ICF)主催の平和学校(School of Peace:SOP)を開催することも計画中です。さまざまな民族的・宗教的なバックグラウンドを持つユースたちが、この「ミニ SOP」に参加することができます。9月に25人程度の参加者を集め、実施される予定です。

東ティモールYMCAのRev. Agostinho de Vasconcelos 会長およびOrasio Mendes 総主事のあたたかい受け入れに感謝申し上げます。

## 総主事デスクより・・・

### 世界総主事会議(ロンドン)報告

アジア・太平洋YMCA同盟総主事  
山田公平



久しぶりに総主事会議が世界規模で行われました。イギリスで2月に4日間の日程で行われました。ちょうど世界同盟の4ヵ年2011~14の中間地点ということで、良いタイミングでした。今回は40名が参加、アフリカ、北米、南米、ヨーロッパ、中東、アジア太平洋と幅広く各地から参加者がありました。アジア・太平洋地域からは韓国(Nam Boo Won氏)、バングラデシュ(Nipun Sangma氏)、インド(John Varughese氏)、パキスタン・ラホール(Samuel Pervez氏)、オーストラリア(Ron Mell氏)とAPAY(山田公平)の全6名が参加しました。

今回の会議の目的は、最初に2年間の評価と新しく出された世界YMCA同盟の方針NEW WAYの確認と来年夏に行われる世界YMCA大会への準備と言ったところで、話し合いの中で確認されたことは、世界中にある各地

のローカルのYMCAはそれぞれがんばっていますが、世界規模でYMCAはあまり力がなく、ばらばらという印象があるということです。ここ数年、世界YMCA同盟は、2012年10月ワールド・チャレンジ、今取り組んでいるチェンジ・エージェント、それから来年取り組む「百万人の声(One Million Voices)」(世界中でユースの状況や希望を調査する予定)を打ち出してきました。徐々にですがグローバルな力、アピールが強められてきたと言えます。

ウガンダ出身のJohn Thomas大司教は、イギリスYMCAの理事長をしている方ですが、そのスピーチはなかなか参考になるものでした。これまでも貪欲と自己中心が人間社会の中で大きな位置を占めているところから始まり、一方、生まれたところが飼いやおけ、そして十字架の死を迎えたイエスの人生はその反対でした。YMCAは、本当の人間の価値について、生き方について、若い人たちに示す必要がないか、若い人たちはまさにそのようなことを学ぶ機会と場所を必要としているのではないかという話でした。一つのたとえとして話されたのは、空を集団で飛ぶカモの一群でした。かれらは先頭リーダーが常に変化しているということです。疲れ、弱いものをかばい、リーダーが常に変更しながら長い旅をしていき、みんないつか一度はリーダーになっているということでした。このカモの群れから、YMCAで学ぶものがあるのではないかとこの指摘がされました。

世界総主事会議は、世界YMCA同盟の中でも決して正式の会議体ではありませんが、このように世界的な視点に立って物事を考え、ビジョンを共にする機会が大切なことであることが確認され、次回は、2014年2月17~21日にドイツで開催されることが決定されました。

## ベトナムYMCAを訪問して

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平

ベトナムのYMCAは、ベトナム語でHop Tac Tre、英語ではYoung Movement for Cooperative Activities(YMCA:協働活動を目指す若者の運動体)という名称で、2000

年からは企業としてホーチミンシティ計画投資局 (Ho Chi Minh City People's Community of Planning and Investment) に登記されています。ベトナムの政治状況の中でそう判断したわけですが、NGO という外国人中心の組織という理解が一般的で、地元の人たちが中心になるYMCAのような組織は会社として登録され、税金を払うプログラムと、非課税のプログラムに分けて活動を展開しています。

人口の10%がキリスト教信者、そのうち9割はカトリックというベトナム。クリスチャン人口は急増しています。現在のYMCA理事長 Fr. Tu は、カトリックの神父であり、行政にも顔のきく人で、最重要課題はYMCAのNGOとしての行政の認知であると考えています。NGOとして特に少数民族や障害をもつ若者たちへの支援を強めていく必要を感じ、そのために今後は行政にも働きかけて、NGOとしての地位と活動拠点を得たいと考えています。

今回訪ねてみて感じたことは、独自のスタッフと活動で、立派にYMCA活動を展開していること。さらに資金も幼稚園や裁縫ビジネス、そして海外からのトラベル支援などを通して外国に頼らない経営に成功している点。このような経営モデルは、他の国にも参考になるものであり、今後はYMCA経営モデルとして検討したいところです。

ここ数年、孤立しがちだったベトナムYMCAは、行ってみると、思った以上の活動を展開しており、5ヶ所のセンターで総勢48人のスタッフとともに次の6つの活動を行っています。

#### 1) 国際グループ受け入れ

2012年1年だけでも20のグループを受け入れ、合計400~500人の若者とともにワークキャンプなど実施。学校の建設や子どもたちへの英語指導などを地元行政と組んで行う。

#### 2) 裁縫訓練活動

毎日25~30人の若い女性[皆10代]がYMCAに来て、裁縫の訓練をかねつつ、注文のあったシャツやトレーナーなどを量産しており、経営的にも採算を採っている。研

修期間は6ヶ月で、この間に仕事を覚え、各地に戻って裁縫の仕事ができるようになる。遠隔地からやってくる女性はYMCAの部屋を寮代わりにして生活している。

#### 3) 職業訓練学校

自動二輪や冷蔵庫、クーラーなどの修理や組み立ての仕事指導している。やはり6ヶ月間のコースで主に男性150人が通ったり、泊まりこんで訓練を受けている。修後は殆どが地元に戻り、仕事についているとのこと。

#### 4) 幼稚園 Dong Nai Branch

山岳民族など少数民族が多く住むこの地域では、両親が働きに出てきて、子どもを朝早くから預ける必要があり、YMCAの幼稚園では朝6時30分から午後5時までオープンしている。

#### 5) ストリートチルドレンへのプログラム Da Lat Branch

この地域には、多くの孤児や路上で物売りをしているストリートチルドレンが存在している。YMCAでは、そのような子ども50人が学校へ行かなくなることがないように、指導を続けている。子どもたちの奨学金は、海外からの支援を受けている。

#### 6) 障がい者のための職業訓練

6ヶ月のコンピュータコース、英語、音楽、ハンドクラフト、そのほかにもスポーツなども障がい者対象に行っており、障がい者自身がYMCAのスタッフとして活動を展開している。

### オルタナティブ・ツーリズム担当者対象ワークショップ 4月17日~22日 フィリピンにて開催予定

プログラム担当者対象のオルタナティブ・ツーリズム・ワークショップ・プログラムは2013年4月17日~22日にフィリピン・パンガシナン(Pangasinan)にて開催される予定です。すでにオルタナティブ・ツーリズム施設を運営して

いるYMCAからの参加が期待され、また近い将来オルタナティブ・ツーリズム施設を運営したいと計画しているYMCAからも参加可能です。

オルタナティブ・ツーリズムの分野の著名なリソース・パーソンが、このワークショップを行います。詳しい情報は、各国YMCAにまもなく発信されます。

パンガシナンYMCAは、APAYのオルタナティブ・ツーリズム倫理憲章を遵守するオルタナティブ・ツーリズム施設を運営しており、オルタナティブ・ツーリズム施設のプログラム担当者対象の現場研修にふさわしいことから、今回の会場に選ばれました。

### ユース参画・リーダーシップ開発委員会 APAYにてファンドレイジング

APAY ユース委員会は、「チェンジ・エージェントTシャツ」を、ファンドレイズの目的で APAY 常務委員会ご出席者・ご来賓から寄付をいただき、販売しました。Tシャツは1枚100香港ドル(約1,500円)で、それ以上の金額をいただけましたら、寄付に回します。

寄付は、ユース・エンパワーメントのプログラム、特に今年8月にチェコ・プラハで開催されるYMCAヨーロッパ・ユース・フェスティバルでの APAY ユース委員会による展示ブースの準備等に用いられます。

皆様から引き続き、ユースへのご支援、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

発行元  
アジア・太平洋YMCA同盟  
Asia and Pacific Alliance of YMCAs  
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail: office@asiapacificymca.org

